

先週後半は校庭で元気に遊べる日もあり、青空のもと、楽しそうな笑顔がはじけていました。梅雨明けが待ち遠しいですね。

今回は、5年生の研究授業のその後の学習と、見て見て授業②(3年1組)、③(2年1組)の様子をお伝えします。自分で考え判断し、決める(線を引く・印を付ける等)と、他の人はどうかな?みんなと一緒にかな?と確かめたくなる、そして、そう考えた理由を言いたくなる、友達はなぜ違うのか知りたくなる、自然と話が始まっていたり、一生懸命伝えたりしている学習場面を見ると、子どもたちの思いがあらわれているなあと感じます。

5年生

「家族で協力、地球を守ろうプロジェクト!」

伝えたいことに応じて資料を選択した子どもたちは、家族に向けて報告文を書き始めました。もう一度資料から分かることを書き出したり、「言葉の宝箱」を活用して書き進め、推敲チェックリストを使って文章を整えたりしながら報告文を仕上げていきました。そして、家に持ち帰って家族に読んでもらい、付箋に感想を書いてもらったようです。一人一人の考えは、家の人に伝わったでしょうか。



自学ノートで勉強したことも活用しながら書いています



書きながら直し、また書いて…
何度も自分の文章を整えて

報告文には資料から分かることを入れて…



(これはできているかな。)
推敲チェックリストを使って見直し

ホール掲示



見て見て授業②

単元名 「書き手のくふうを考えよう」
教材名 「『ほけんだより』を読みくらべよう」 3年1組 伊与田 教諭

めあて:大森先生に伝えてあげよう!
どちらのほけんだよりにするか、自分の考えと理由をまとめて伝え合おう

段落相互の関係や考えと理由や事例との関係について捉える力を育成するために、一次では、学校からの様々なお便りを提示し、その目的を考えさせたそうです。また、実際に養護の武内先生が書いた「ほけんだより」の工夫を読み取るという単元のゴールを設定し、学習の見通しを持たせていました。

教材の2枚のほけんだよりは、朝ご飯を①食べる⇒良いこと、②食べない⇒よくないこと(このようになってしまふ)という内容になっていてそれぞれ絵・表の資料が載っています。子どもたちは、「朝ご飯を食べると〜」「表を使ったら〜」など、書いてある内容や資料(絵・表)を読み比べていました。

事後研より

【間指導主事(西部教育事務所)にもご指導いただきました】

- 子供達の聞く力・書く力がよく育っている。課題意識をもたせたり、考えの共有から再考させたりといった授業構成がよかった。
- ▼本時のゴール(何をどこまで書くことができればよいか)を明確に持つことが大切。どちらのほけんだよりがよいかを選ぶ際には、読み手(相手)がどんな人なのかを意識させる。選んだ理由としては、その相手にとってどのように分かりやすいのかなど、読み手と内容や図(または表)などを関係付けて考えさせるとよい。



見て見て授業③

単元名 「せつめいのちがいを見つけよう」
教材名 「サツマイモのぞだて方」 2年1組 小島 教諭

めあて:同じことが書かれている文を見つけ、説明の違いについて考えよう。

2つの文章の書かれている内容を読み比べ、単元のゴール『目的に合った本を選ぶ』に向かう学習となっていました。前時の復習や「めあてが書けた人は合図を送ってください。」「同じところを赤(線)で引いて」など、テンポよく進んでいき、まず一人で同じような内容を見つけ、困っている⇒となりの人と確かめていきました。終末では、「一つ目の文章→サツマイモの育て方を伝えたい。二つ目の文章→立派ないもを収穫する方法を知りたい。説明の仕方が違うのは、伝えたいことが違うから」とまとめ、三次へつながる学習を目指していました。

事後研より

【小松指導主事(小中学校課)にもご指導いただきました】

- 2つの文章を比較して、それぞれの目的を考えさせるというめあてや学習内容が良い。また、前時までの学習の足跡が掲示されていて、確かめながら積み上げることができている。
- ▼解決したい「問い」や比べて読むことの必然性を持たせたい。「〇〇の人に伝えるとしたら」「〇〇の時なら」など、相手や状況を設定することで自分事として考え読み比べていく。また、学びの途中でもゴールを示し確認することで、今日の学びがどうゴールに結びついていくのかを子供と共有したい。

